令和５年度高等学校生徒支援体制充実事業
教育活動充実支援事業【総合的な探究の時間】研究成果発表

宮城県東松島高等学校

ひがプロの年次履修イメージ

令和７年度に完成予定

	R4	R５	R６	R７	R８	R９
１９年次	①					
２０年次	①	②				
２１年次	①	②	③			
２２年次	①	②	③	④		
２３年次		①	②	③	④	
２４年次			①	②	③	④
２５年次				①	②	③

１　研究目標

（1）全生徒対象に実施するひがまつプロジェクト（以下「ひがプロ」）のカリキュラムを評価・改善し、ひがプロの全体計画を見つめ直すとともに、ひがプロ①及び②のカリキュラムの更新、ひがプロ③のカリキュラムの修正を行うことにより、生徒の学びの質の向上を図る。
（2）義務教育段階での学習内容が十分に身に付いてない生徒や、他者と関わりながら学習を進める経験が乏しい生徒を対象とする探究学習の在り方を明らかにする。
（3）ひがプロの指導実践を通して、教員が学習評価の在り方を再認識するとともに、より適切で効果的な評価方法を検討し、教科等における指導実践の改善を図り、生徒の学習意欲の向上、資質・能力の育成につなげる。

２　研究方法

（1）ひがプロ①・②の授業において、担当する教員が共通の年間指導計画に基づいて指導を展開する。
（2）ひがプロ①・②の学習活動への生徒の取組状況を、担当する教員が評価規準に基づいて見取り、記録に残す。
（3）ひがプロ①・②の各内容のまとまりの記録を集約、分析、蓄積し、生徒の変化・変容を把握するとともに、学習活動を客観的に見取る人（スーパーバイザー等）の意見や助言を参考にし、学習活動の展開や内容、方法の更新・修正を図る。

３　研究活動の実際

令和5年度

R5　活動の概要
細密な年間指導計画を基に生徒の実態に合わせて実施した。ひがプロ①、②共に２サイクルの実施形態とし、１周目にＨＲ単位で学習方法を体験、２周目に各自の探究を行った。大テーマを①は3つの探究コースから選択、②は「課題ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ」から設定した。②では興味関心の重なるメンバーによるグループ活動を基本とし、ICTを活用した他者との関わりから協働を体験し、また、グループ形成や再構成などに柔軟に対応した。成果物は①はレポート、②はスライドショーや動画などでまとめた。

	ひがプロ①（入学年次）「探究的な見方や考え方を身に付けよう」	ひがプロ②（入学年次以外）「身近な問題に気付く力、解決する力を付けよう」
1周目（体験）	ガイダンス･アイスブレイク クラスの課題を設定しよう	課題テーマの理解
	情報収集の方法	探究の手順と発表方法
	整理･分析とは	課題を設定しよう
	まとめ･表現	協働について考えよう
2周目（個人活動）	自分の課題を設定しよう	情報を収集しよう
	情報を収集しよう	整理･分析
	整理･分析	まとめ･表現を工夫しよう スライドショーや動画を活用し、自分達の発表の形を作ろう
	まとめ･表現	
2周目（グループ活動）		
	①②全体発表会（成果物閲覧・意見交換）	
	振り返り	振り返り

第1回　教員振り返りアンケート（５月）
年３回実施。
学習の見取りや授業改善に関する項目を設けて実施。以後の指導や職員研修に反映。

第1回　生徒アンケート（６月）
協働的な学習の意識や経験についての実態把握。

第2回　教員振り返りアンケート（7月）

第2回　生徒アンケート（２月）
１回目に対応する内容で、全体発表会後に実施。

第3回　教員振り返りアンケート（２月）

要支援生徒の把握と個別支援（随時）
学習状況の共有を行い、学習を進められない生徒の有無等を教員間で把握。個別支援の機会を随時設定。

第1回ひがプロラボ・ｶﾘｷｭﾗﾑ開発推進委員会（９月）
「個々に応じた学習と協働的な学習への方策」についての意見交換とスーパーバイザーによる指導・助言。

第2回ひがプロラボ・ｶﾘｷｭﾗﾑ開発推進委員会（12月）
次年度の計画立案について、スーパーバイザーとオンラインミーティングを実施。

第3回ｶﾘｷｭﾗﾑ開発推進委員会（１月）
スーパーバイザー及び大学生に全体発表会を参観いただき、生徒に向けた講評を撮影。2月の振り返り時に生徒が視聴。

全体発表会の実施
ひがプロ①はレポート②はKeynoteで動画を作成し、閲覧・視聴し合った。音声の入力に工夫が見られた。意見交換はコメント機能を活用し、振り返り時に参考にした。

協働的な学習に関する生徒の意識

ひがプロ②･･･グループとしてのステップをどう踏ませるか。
ひがプロ③･･･探究の高度化のステップをどう踏ませるか。

令和6年度

R6　活動の概要
細密な年間指導計画を基に生徒の実態に合わせて実施する。ひがプロ①は令和５年度と同様に２サイクルで実施する。②・③はそれぞれ１サイクルでの実施形態とし、②の２サイクル目を③に位置付ける。探究課題の設定は、②は「ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ」から設定する。③では、②での探究の「続き」や「やり直し」、「新たな関心事」から設定する。
興味関心の重なるメンバーによるグループ活動を基本とし、ICTを活用した他者との関わりから協働する。令和５年度の反省から、個人での活動にも柔軟に対応する。成果物は①・②・③のいずれもレポートを基本とする。

	ひがプロ②（２３年次）「身近な問題に気付く力、解決する力を付けよう」	ひがプロ③（卒業年次）「身近な問題や社会的な問題に気付き、解決策等を発信する力を付けよう」
1周目	課題テーマの理解	探究の深め方・広げ方を学ぼう
	課題を設定しよう	課題を設定しよう
	協働について考えよう	協働について考えよう
	情報を収集しよう	情報を収集しよう
	情報を整理・分析しよう	情報を整理・分析しよう
	まとめ・表現を工夫しよう	まとめ・表現を工夫しよう
	HR発表会	HR発表会
	全体発表会準備	全体発表会準備
2周目		
	①②③全体発表会（成果物閲覧・意見交換）	
	振り返り	振り返り

４　成果と課題

本校は小中学校での不登校経験者や他者との関わりに困難を感じる生徒が数多く在籍し、小中学校での探究活動に関心や達成感を感じられず、「総探」に苦手意識を持つ生徒が多く見られた。そのため、令和４年度に引き続き、「ひがプロ①」では生徒それぞれの関心事について「一人一人が、いかに探究のステップを踏む活動を行うか」を意識しながら実施した。探究を２サイクル行う構成にし、前半の探究をHR単位で実施することで、生徒は探究の進め方の具体的なイメージを持って後半の探究活動に進むことができた。義務教育段階での学習内容が十分に身に付いていないと思われる生徒でも、探究学習をステップ・バイ・ステップで進め、学習経験を積ませることができた。「ひがプロ②」では「青年期」を大きなテーマとして、課題設定に繋げた。似たような興味関心を持った仲間と一緒に探究学習に取り組むことで、他者と関わりながら学習を進めることができた。今回の学習を通じて、協働的な学習について「得意・どちらかといえば得意」であると意識を持った生徒は２１％増加した。一方で、協働で学習することへの嫌悪感から年度途中で学習を止めてしまった者や、人間関係の変化から、当初の相手と学習を進めることが困難になった者がいた。このような生徒や状況の変化があっても取り組める協働学習の形を模索し、改善、実践していく必要があることが課題として明確になった。